

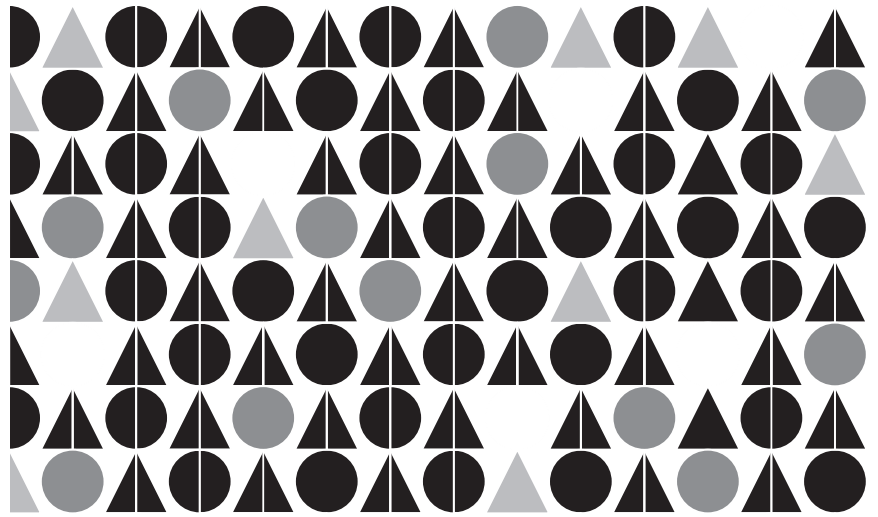
北九州芸術劇場
KITAKYUSHU PERFORMING ARTS CENTER

劇場塾

2017

オープンレクチャー

vol.1



『古典芸能入門』 ～現代から紐解く古典の魅力～

講師: 木ノ下裕一 (木ノ下歌舞伎主宰)

北九州芸術劇場「劇場塾」では、これからの地域文化の振興を担う人材の育成や人的ネットワークの形成を目的に、舞台芸術分野の専門家を招いた講座やワークショップなどを開催しています。この「オープンレクチャー」では、より身近な題材をテーマに、地域のみなさんが芸術を深く知り、楽しむきっかけとなるような、多彩な講座を実施しています。

今年度のオープンレクチャー第1弾は、歌舞伎演目に現代的要素を取り入れ、自由な発想や大胆なアレンジを加え上演する今話題の団体「木ノ下歌舞伎」の主宰・木ノ下裕一氏をお迎えします。

現代の視点からみる新しい古典の魅力とは…? 古典芸能のいろはを、軽快なトークで楽しく学ぶ講座です。古典はちょっと難しい…と思っているアナタ、古典芸能に触れる機会が少ない世代の方にもオススメです。

日時 2017年12月23日(土・祝) 14:00～16:00

会場 北九州芸術劇場 創造工房 稽古場(リバーウォーク北九州6階)

募集人数 30名程度(先着順。定員に達し次第、締め切らせていただきます)

受講料 500円(税込み)

応募方法 ①氏名 ②年齢 ③電話番号 ④住所 ⑤応募動機 をご記入の上、下記宛先までメール・FAX・はがきのいずれかでお申し込みください。

※折り返しのご連絡をもちまして、受付完了とさせていただきます。

※1件のお申し込みで1名様のお申し込みとなります。 ※未就学児入場不可

応募締切 2017年12月4日(月) 必着



能、狂言、文楽や歌舞伎などの伝統芸能は、先人たちの“知”の結晶です。そればかりでなく、ちょっと見方を変えれば、POPで、前衛的で、コンテンポラリーな舞台芸術としても楽しむことができます。本講座では、能狂言の成立から文楽と歌舞伎の誕生と隆盛まで、日本芸能史を楽しく紐解きつつ、様々な角度から伝統芸能の“古典性”と“現代性”の両面の魅力について一緒に学んでいきたいと思えます。ビギナーの方も大歓迎です。



profile

木ノ下裕一 [きのした・ゆういち]
1985年7月4日、和歌山市生まれ。小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受けると同時に独学で落語を始め、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。2006年に古典演目上演の演出や補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『黒塚』『東海道四谷怪談一通し上演』『三人吉三』『心中天の網島』『義経千本桜一渡海屋・大物浦一』など。2015年に再演した『三人吉三』にて読売演劇大賞2015年上半期作品賞にノミネートされる。また、2016年に上演した『勸進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。平成29年度芸術文化特別奨励制度奨励者。その他古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。

お申し込み・お問い合わせ

〒803-0812 北九州市小倉北区室町1-1-1-11 北九州芸術劇場「劇場塾2017オープンレクチャー vol.1」係
Tel:093-562-2620 / Fax:093-562-2633 / e-mail:gekijoujuku@kicpac.org

主催:(公財)北九州市芸術文化振興財団 共催:北九州市 助成:(一財)地域創造 平成29年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

